

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局: JA 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 15

麦類の中間管理技術対策について

播種時の気象条件は、11月下旬にまとまった降雨があったものの降雨日数が少なかったことから、播種作業は順調に進んだ。

出芽・苗立ちは、11月中下旬播きでは、適度な土壤水分であったことから良好であったが、11月末以降播きでは、平均気温が低かったため、出芽がやや遅れた。出芽後の生育は、11月中下旬播きでは概ね平年並みと順調で、分けつ開始の時期となっている。

向こう1か月の季節予報（福岡管区气象台発表、1月8日～2月7日の天候見通し）では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いと予想されている。そこで、麦の収量安定のため、下記の技術対策を実施する。

技術対策

(1) 排水対策

麦の健全な生育のためには、排水対策が不可欠である。ほ場に水が溜まらないよう排水溝の溝さらえを行い、排水路を整備して地表水を排水する。ほ場が乾燥した時点で、土入れを兼ねて作溝する。

(2) 土入れ・踏圧

土壤が乾燥した時点で、速やかに土入れ・踏圧を実施する。

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、分けつ始期から節間伸長開始期前（踏圧の晩限：草丈 20～25cm 程度）までに3～4回実施する。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、本葉3～4枚頃から3月上旬までに2～3回実施する。

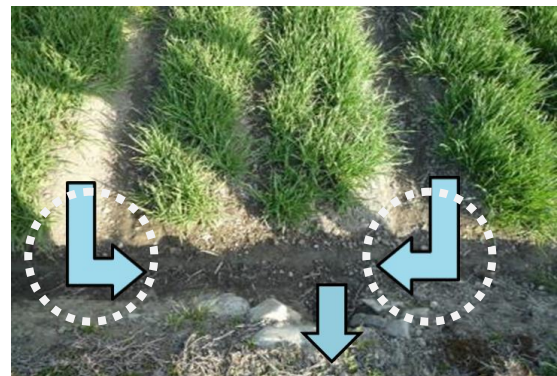
(3) 雑草防除

雑草の草種や発生状況を観察し、選択性茎葉処理除草剤（ハーモニー水和剤など）を適期に処理する。除草剤は普通作雑草防除の手引きを参照し、最新の登録情報を確認して使用する。

(4) 追肥

1回目の追肥（分けつ肥）は、小麦・食料用大麦・裸麦では1月下旬に基準量を施用し、ビール大麦は1月下旬～2月中旬に基準量を施用する。追肥に緩効性肥料を用いる場合も1月下旬に施用するが、**施肥後に土入れを実施して確実に覆土を行う。**

2回目の追肥（穂肥）は、食料用大麦・裸麦では2月下旬、小麦では3月上旬に基準量を施用する。なお、葉色が低下した場合は、2回目の追肥を早める。



落水口

図 排水路の整備

※溝と排水口をつなぎ、地表水を排水